

施策	2103 定住環境の整備推進							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民全般							
施策が目指す姿	土地区画整理事業の推進、木造住宅の耐震化の促進、定住希望者への支援及び本市での定住の魅力伝えるシティプロモーション事業の実施等を図り、定住環境の整備を推進する。							
成果指標	区画整理実施面積...5年間で370.3ha（現状値364.9ha） 木造住宅の耐震化率...5年間で95.0%（現状値77.8%） 定住希望者住宅新築補助年間利用者数...年間で300件（現状値250件） 住まいる奨学生数...5年間で250人（現状値83人）							
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [ha]	予定	364.90	367.10	369.10	370.10	370.30	
		実績	365.50	367.00	368.20			
	成果指標2 [%]	予定	77.80	83.00	87.00	91.00	95.00	
		実績	81.60	83.00	87.00			
		単位コスト	9,957.48	9,840.55	6,055.72			
	成果指標3 [件]	予定	250.00	255.00	265.00	280.00	300.00	
		実績	533.00	596.00	433.00			
		単位コスト	1,524.45	1,370.41	1,216.74			
	成果指標4 [人]	予定	83.00	124.00	166.00	208.00	250.00	
		実績	87.00	158.00	204.00			
		単位コスト	9,339.43	5,169.41	2,582.59			
トータルコスト (千円)	予定	760,213	781,228	526,848	0	0		
	実績	812,530	816,766	526,848	0	0		
内部評価	貢献度	単位施策「定住環境の整備推進」を実現させるための取組みとして、各事務事業は重要な要素であり、上位基本施策「暮らしやすい都市の創出」に大きく貢献するものである。						
	達成状況	4つの成果目標全てにおいて概ね目標値を達成することができた。特に「定住希望者住宅新築補助年間利用者数」は、目標値を大きく上回る結果となった。						
	課題	定住促進対策の住宅等補助については、毎年度目標値を上回る利用者数があることから、財源の確保が課題となっている。						
	取組方針	土地区画整理事業は計画的かつ効率的に事業を推進し、木造住宅の耐震化は普及啓発に努める。						
外部評価								
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	430201	開発指導事業費				34,523	100	
	437502	新大平下駅前地区土地区画整理事業費				264,321	100	
	456201	建築指導事業費				32,709	100	
	719501	建築指導業務支援システム整備事業費				28,048	100	
	719901	定住促進支援事業費				165,129	100	
	760901	木造住宅耐震化促進事業費				63,200	100	
	778001	定住促進奨学金貸付事業費				14,790	100	
	779001	ブロック塀等撤去改修工事費補助金				8,982	100	
	456101	狭あい道路整備補助金				10,831	93	
438602	磯山地区土地区画整理事業費				7,500	67		

単位施策評価表 補表

施策	2103 定住環境の整備推進		
区分	妥当性	妥当	定住人口や交流人口の確保に向け、定住環境の整備は必要不可欠であり、展開する各種事業は妥当である。
	コスト削減の余地	無	各種補助制度の利用者が、大幅に増加していることからコスト削減は困難な状況である。
	受益者負担	適正	現行の事業執行においては、適正である。
	上位貢献度	有効	上位施策の「暮らしやすい都市の創出」の実現には、有効な事業であり、貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	現在、実施している事業において、類似する事業はない。
	成果向上の余地	有	事業の必要性や各種補助制度の積極的なPR等により、さらなる成果が見込まれる。
内部評価	貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の整備改善と宅地利用の増進を図る土地区画整理事業、適正な土地利用や住宅化を誘導する開発指導や建築確認、空き家の有効活用による定住促進を図る住まいるバンク事業、定住人口及び交流人口の増加を図る定住促進支援事業や定住促進奨学金貸付事業等は、基本施策「暮らしやすい都市の創出」を実現するために有効な事業であり、貢献度は高い。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理実施面積については、新大平下駅前第2地区において、都市計画道路、区画道路などの工事が完了し、目標を概ね達成することができた。 ・木造住宅の耐震化率については、チラシ、パンフレットによる補助制度の周知、住宅耐震化の普及啓発に努めることで、目標値を達成することができた。 ・定住希望者住宅新築補助の年間利用者数については、433件の申請があり、目標値の265件を大幅に上回る結果となった。 ・住まいる奨学生数については、学校訪問等のPRを行い、目標値を上回ることができた。 	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅取得に関する補助については、毎年度目標値を上回る利用者数あることから、十分な財源を確保する必要がある。 ・近年の大規模地震の発生による市民の災害に対する意識の高まりなどにより、安全で快適に暮らすことのできる住環境の整備が求められている。 	
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安全で快適に暮らし続け、より多くの人々が住みたいと思える、質の高い定住環境の整備と各種支援事業を引き続き推進する。 ・土地区画整理事業については、計画的かつ効率的に事業を推進し、早期完了を目指して取り組む。 ・木造住宅の耐震化については、ローラー作戦などを実施し、引き続き事業の重要性のPRに努める。 ・定住促進事業については、引き続き積極的な周知に努め利用促進を図る。 ・住まいる奨学生数については、学校訪問等とともに、引き続き広報紙やHP等も活用し採用者数を確保していく。 	